

厚労省・私のまちの「通いの場」自慢コンテスト

厚生労働省「私のまちの『通いの場』自慢コンテスト」(実行委員会主催)で、鷹栖町の「あつたかすりハビリ体操教室」と札幌市豊平区の通いの場「夏休みだよ!したっけ、みんなで集まるかい」が優秀賞を受賞した。鷹栖町では、町の一般介護予防事業で理学療法士が中心となり、ご当地体操考案、体操指導士を養成し住民主体の体操教室開設をサポート。札幌市豊平区は介護予防センター職員と生活支援コーディネーターが連携し、自治会のない団地で通いの場から共生のまちづくりへの発展を後方支援。いずれも専門職と住民が共に受賞の喜びを分かち合っていた。



2022年(令和4年)10月21日 毎週金曜日発行

発行所 株式会社北海道医療新聞社 ☎011(221)7777

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目(北海道医師会館)

年間購読料=定価16,500円(税込)

- 主な記事**
- 2面…第25回ケアマネ試験受験者数3年連続増加、厚労省公表
 - 3面…札幌市社協、市立大学生と協働しLINEスタンプ
 - 8面…訪問介護「士別ケアステップ」、ベテラン介護福祉士3人が開設

道内2件が優秀賞受賞



10日に東京都内で開かれた表彰式に参加した大河原PT(右から2番目)

「ご当地体操&地域の魅力発信動画部門」応募数は45件。北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州。リ体操教室」は、特養な

同コンテストは、新型コロナウイルス感染症の影響によって通いの場が減少していることから、再活性化を目的に開催。「ご当地体操」の活動にとりて参考に「ご当地体操&地域の魅力発信動画部門」と「新しい通いの場」の好事例を全国から募集した。

鷹栖町「あつたかすりハビリ体操教室」

理学療法士によるサポート

鷹栖町「あつたかすりハビリ体操教室」は、特養な住宅、デイサービスなど13カ所、体操指導士による住民主体の体操教室が158回開催され、延べ1301人参加している。同法人の大河原和也PTは5年間を振り返り、「指導士が閉じこもりがちの高齢者のいる町内会に教室開催を提案するなど、主体性が向上している」と手応えを口にしているほか、「コ

「新しい通いの場アイデア&実践部門」は全国から寄せられた45の取り組みから優秀賞4作品を選び、その中から最優秀作品を選定。審査は「活動の課題を解決できた」「通いの場の継続、発展につながる」「他の通いの場の活動にとりて参考に」を評価した。

沖繩の各地域優秀賞8作品を選び、その中から最優秀賞を選定。審査は「楽しく体操できている」「通いの場や地域の魅力が伝わる」「通いの場の活動に地域住民が主体となって積極的に取り組んでいる」を基準としている。



優秀賞の賞状と表彰盾を手にする山口相談員(右)と水戸生活支援推進員

札幌市豊平区「夏休みだよ!したっけ、みんなで集まるかい」

介護予防Cと生活支援連携

ラジオ体操は子どもたちの夏休み期間(7月25日~8月10日)に合わせて月曜から金曜の毎日実施したところ、毎回35人前後が参加。夏休み中に3回開いたあおぞら市との相乗効果によって住民同士の交流が深まった。野菜を購入して独居高齢者にとって量が多いときは、住民が分け合うことを提案し自宅まで送り届けるなど、支え合いが自然に発生。住民自らが高齢化を自分のこととして考えるきっかけとなったようだ。

就労支援事業所利用者も野菜、駄菓子販売で住民と交流したり、ラジオ体操に参加したり、メンバーなど社会参加の一歩

からの「夏休み期間は子どもと同時にあおぞら市ももたちをラジオ体操に誘って多世代交流で多世代交流を促進したい」という声が出た。この声を受け、支援のきっかけになった。団地管理人、管理会社、地域包括支援センターを含めた協議体で検討を重ね、団地住民にラジオ体操参加を呼び掛けるほか、駐車場内での野菜、子ども向け駄菓子などを販売する「縁日風あおぞら市」を企画。水戸生活支援推進員が農福連携に取り組み障害者就労支援事業所をつなぎ、同事業所が野菜と子ども向け駄菓子等を販売した。けつを話す。